

【様式】

令和3(2021)年度 学校マネジメントシート

学校名 (津商業高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	商業教育を通じて、「創造力」・「協調性」・「知恵」を持った人材を育成することで、地域社会に貢献できる学校	
(2)	育みたい児童生徒像	・自らの可能性に挑戦し続けるとともに、自ら学び、考え、行動し、自立している生徒 ・忍耐力・創造力・協調性を身につけ、新たな課題の解決に積極的に取り組んでいる生徒
	ありたい教職員像	・目指す学校像、育みたい生徒像の実現に向け、情報共有と意思疎通を進めつつ互いに協力し、創意工夫が図れる教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒>部活動を含め充実した高校生活を送ることを通して、学ぶ喜びを実感するとともに、自らの希望進路を実現することを期待している。</p> <p><保護者>子どもが安全・安心な学校生活を送るとともに、学校生活全体を通じた人間力の育成及び希望進路の実現を期待している。</p> <p><地域>学校の取組により、地域の活性化に資する人材を育成するとともに、地域の教育力を学校が活用し、社会に貢献する意欲や態度をともに育成することを期待している。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><家庭> 学校情報の提供 学校行事等への参加機会の増加</p> <p><中学校> 卒業生の様子、入試情報などの共有</p> <p><地域企業・事業所> 地域産業の担い手としての人材の育成</p>	<p><家庭> 本校教育活動への理解と連携協力</p> <p><中学校> 基礎学力定着の促進と個々の生徒に対して効果的な指導を進めるための情報共有</p> <p><地域企業・事業所> 生徒の生きた学習の場(実学)の確保に向けての連携協力</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>○昨年度から課題としていた津商業高校の取組の発信については、Web ページが適切に更新されるなど、取組が進んでいる。</p> <p>○教員の献身的な取組で、部活動だけでなく、授業内容についても高い評価を得るようになってきている。</p> <p>○津商業高校では、挨拶励行や交通マナーの良さが風土としてできあがっている。そのような風土を今後も継続させていく必要がある。</p> <p>○授業改善に向けては、「学校生活アンケート」の結果からも一定の成果が出ていると考えられるので、授業の工夫や改善の内容について教員全体でさらに共有化を図ることが必要である。</p> <p>○現在のようなコロナ禍の中、Web を活用した授業の充実、小グループ単位での学習方法の開発なども今後の課題となる。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	・資格取得や部活動への積極的な参加の意思を持った生徒が多い。近年は、国公立大学も含めた進学志望者が増加しており、就職志望と進学志望の両面での支援体制の充実が急務である。また、新学習指導要領の全面实施を受けて、授業内容や方法の改善等についてさらなる協議を進める必要がある。
	学校運営等	<p>・コロナ禍にあっても、商工会議所や地元企業等々との連携を図ることができた。本年度も様々な外部機関と協働する取組をさらに進めていく。</p> <p>・働き方改革に関する取組については、今後も継続的な課題となると考えている。中長期的な視点に立って整理すべき事項を検討していく。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自ら学び、自ら考える取組となるような課題の設定や学習活動を推進する。 ・基礎学力を充実させるとともに、専門的知識や技能の取得をより一層推進するために、各教科間の連携を考慮したカリキュラム・マネジメントを推進する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育理念や教育内容、教育実践内容等の商業教育の魅力を、中学校をはじめとして広く地域社会にPRし、理解を求める取組を推進する。 ・地域社会と学校との間で「人」や「情報」の交流を増やし、地域社会からの信頼と協力を得る中で、「生きた学習」の機会を増やせるよう取組を進める。 ・目的の明確化および共有を進め、組織の業務の見直しを進めることで上限時間縮減に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	(1)外部の教育力を積極的に利用し、より具体的な内容や新しい情報を用いた授業を行い、意欲を引き出す授業を実施する。 【成果指標】 生徒の学校生活アンケートにおいて、学校が楽しくなったと回答する生徒の割合 78%以上	本年度も地元企業をはじめとする外部教育力を活用し、多くの成果を得ることができた。その成果はいくつものメディアに取り上げられた。アンケート結果はほぼ指標どおりの75%であった。	◎
キャリア教育の充実	(1)進路ガイダンスの充実 望ましい進路選択となるよう多岐にわたる内容とする。 (2)インターンシップの実施 昨年度は、インターンシップの代替事業に取り組んだ。それにより一定の成果を得ることができた。本年度のインターンシップの実施については不透明であるが、大切な取組であるので、なるべく実施できるよう図っていきたいと考えている。 【成果指標】 学校の取組により、自らの進路について考えることができたと答える生徒の割合 65%以上	充実した進路ガイダンスを実施したことで、就職、進学とも生徒の希望を最大限実現することができた。 インターンシップについては、実際の職業体験はできなかったが、代替講座として企業だけでなく、三重大学からも講師を招聘し、生徒の興味関心に沿った講習会を実施することができた。インターンシップの実施に至らなかったため、成果指標に係る調査はできていないが、講座後の振り返りでは、自らの進路を考えることができたとの多くの回答が得られた。	
心を育む教育の取組	(1)命を大切にすることを育む教育の充実 自らの考え方、捉え方を見つめ直すことで、いじめ防止や命を大切にすることを育成する。教科指導と連動させながら取組を進める。 【活動指標】 人権フィールドワーク発表会後のアンケート調査等から取組の成果と課題を把握する。	人権教育推進計画にそって教科指導と校内の取組とを連携させることができた。ことに、1年生の人権フィールドワークとその発表会は充実した内容で、その際に各グループが作成した壁新聞も、これまでに増してしっかりと内容となった。人権教育推進協議会では、たいへん効果の高い学習経験になったとして、次年度以降も取組を継続することを確認した。	

改善課題

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のために取組が大きく制限された。特に、自らの進路を考えるインターンシップを2年連続して実施できなかったため、ノウハウも含めて取組を継承していくことが必要であり、それとともに、今後の生徒たちの進路を確実に保障する取組が求められる。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の 取り組み	(1)研究会や講習会等への参加 (2)教員相互の授業研究 【活動指標】(1)6名以上 (2)年2回以上	県教委研修企画・支援課の教育相談に係る研修をはじめとして、商業教育に係る研修等に積極的に参加する体制ができています。 教員相互の授業研究については、校内の授業研究週間を持つことができた。	
情報提供	(1)授業、学校行事等の公開 (2)ウェブページ、Instagram等の積極的な活用 【活動指標】年3回以上 【成果指標】参加者アンケートでの満足度80%以上	新型コロナウイルス感染防止のために、高校生活入門講座は実施できなかったが、休校あけに、学校説明会を総合文化センターで実施した。さらに、参加希望者が多かったため校内でも別日程で同様の説明会を実施した。その他、ウェブページやメディア等を通して、本校の取組を発信することができた。 なお、学校説明会の学校案内参加者アンケートでは、90%が「よくわかった」と答えている。	
地域との連携	(1)地域行事等への参加 【活動指標】 授業での校外学習、部活動を含むすべての取組で、実施5回以上	コロナ禍の中、人権フィールドワークでは、リモートによる活動を取り入れるなど、工夫をしながら県内12の施設、団体と連携して調べ学習を進めることができた。 また、本年度も地元企業や店舗との協同した取組により成果を上げ、多くのメディアに取り上げられた。	◎
総勤務時間の 縮減	(1)上限時間月45時間超0人、年間360時間超0人 (2)会議時間の短縮 (3)夏季休暇の取得促進 (4)月1回の定時退校日実施 (5)部活動の週1回休養日の設定 (6)閉校日の設定 【成果指標】 (1)時間外労働時間昨年度以下 (2)職員会議時間60分以内90%以上 (3)全職員の取得実績 (4)定時退校日設定100%、退校率95% (5)休養日設定・実施率100% (6)年間3日以上	45時間超の職員は昨年度と同様、延べ29人となってしまった。年間、360時間超が7人となった。要因としてはやはり部活動指導が大きい。 職員会議についてはほとんどの会議が60分以内に終了できている。 夏季休暇については全く取れなかった職員はいない。 定時退校日、部活動休養日、閉校日、いずれも当初の設定どおりとすることができた。	※

改善課題

時間外労働時間については、コロナ禍による課題や新たな教育課題の発生なども鑑みながら、昨年度から校内の諸事業のスクラップアンドビルド、実施方法の簡略化、システム化等を図る取組を進めている。しかし、なかなか成果が上がっていない。部活動指導の考え方など教員の意識改革も含めて、さらなる取組を進める必要がある。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向

昨年度にも増して地元の企業との連携が進んでいる。そのため、生徒たちは商品開発だけでなく、開発した商品を持って地元で、あるいは県外にまで出て販売にも携わっている。

また、津駅周辺の将来像について、津市、三重県、国土交通省が主催する会議において提案、プレゼンテーションをするなど、活発な取組を実施した。

これらの取組は、教室で知識として学ぶだけでなく、フィールドワークや協働学習などを通して、結果的に「創造力」・「協調性」をもち、知識を「知恵」に発展させるような学習体験になっている。

なお、そのような取組がいくつもの新聞やテレビ番組などのメディアに取り上げられたことで、津商業高校の生徒たちの活動が広く知られるようになった。また、津商業高校通信の発行をはじめとして、Web による発信も効果的であった。

このような取組を次年度も継続、発展させ津商業高校の価値をさらに高めていきたい。

授業改善に向けては、「学校生活アンケート」の「先生の説明は分かりやすいか」という問いに対して、「わかりやすい」「まあまあわかりやすい」を合わせて 84% (昨年度 77%) となったことから、教員が意識して取り組んでいると判断できる。背景としては、ICT 機器の活用なども進んだためにこのような結果になったと考えられるが、種々の機器の操作も含めて、授業の工夫や改善を教員全体で共有化することが必要である。

その一方で、同アンケートからは忘れ物をする生徒が一定数見られたり、自宅学習の時間が短かったりといった課題もうかがえる。それらの解決に向けた取組を探る必要がある。

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策

次年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の対策は引き続き必要になると考えられる。そのなかで、課題解決に向けてどのような取組ができるのかを議論していく。その他、急務な課題としては、今後 Chromebook を持った生徒が入学してくるので、授業における ICT 機器の効果的な活用方法について研究することが不可欠である。

すでに方向性については議論を深めているところであるが、令和 4 年度より施行される新学習指導要領における指導と評価の在り方についても、施行しつつ改善を加えるなどさらなる研究を進める。

学校運営についての改善策

教育活動にも関わることであるが、地元企業等々といくつもの連携を図ることができた。そのため、学校の取組について高い評価を得ることができている。それを生徒の進路決定にも活かしていくことが求められる。次年度についても、様々な外部機関と協働する取組を進めていくことが必要である。その一方で、大学進学にもつながる課外授業等の取組についても充実を目指す。

働き方改革に関する取組については、今後も継続的な課題となる。法律が改正施行されたことを受けて、中長期的な視点に立って整理すべき事項を検討していく。